

因果の真理

普泉寺 小山 貴大

修証義第四節

今の世に因果を知らず、業報（ごつぼう）を明らめず、三世（さんぜ）を知らず、善悪を弁（わき）まえざる邪見の党侶（ともがら）には群すべからず、大凡（おおよそ）因果の道理歴然（れきねん）として私なし、造悪（ぞうあく）の者は墮ち、修善（しゅぜん）の者は陞（のぼ）る、毫釐（ごうり）もたがわざるなり若し因果亡（ぼうじて）虚しからんが如きは、諸仏の出世あるべからず、祖師の西来（せいらい）あるべからず。

現代語訳

今のこの世において、善因善果、悪因悪果という因果の道理も知らず、行いの報いということも悟らず、過去現在未来という三世のつながりということも考えず、善悪をわきまえない正しくない考えを持つ人たちと一緒に行動してはなりません。結局のところ因果の心理ははっきりと明らかかなもので個人的な誤差のないものであります。もし因果の心理が否定されたら、諸仏がこの世にあらわれることも祖師（菩提達磨尊者）がインドから遙々中国まで来て仏法を伝えて下さるといふこともあるはずがないのです。